



県民センター ニュースレター

3.15 水産シンポ パネルディスカッション風景

第27号 2014年3月31日

発行：東日本大震災復旧・復興支援みやぎ県民センター

〒980-0804 仙台市青葉区大町2丁目5-10-305 TEL022-399-6907 fax022-399-6925

http://www.miyagikenmin-fukkoushien.com/ E-mail:miyagi.kenmincenter@gmail.com

この号の内容

- ① 3.15 水産シンポを開催
- ② 3.16NO NUKESに2千人
- ③ 石巻住まい連 第三次陳情
- ④ イベント紹介

東日本大震災3周年企画

～「ひと」と「生業」の復興へのみち～

3.15 水産シンポジウムを開催

県民センター3周年企画～「ひと」と「生業」の復興へのみち～ 宮城の水産業の復旧・復興の今と未来を語る集いが3月15日、仙台市で開催され、180人の方々が参加しました。

県民センターは大震災直後に設立されて以来、「水産特区」導入を強行する村井知事に対して、広範な方々と連帯して、導入反対の取り組みを進めてきました。昨年9月に「水産特区」は強引に導入されましたが、この問題にだけ議論が集中し、肝心の「大被害を受けた宮城の水産業の復旧状況はどうなっているのか？そして苦境にある水産業をこれからどう発展させていくのか？」という議論が不十分な現状にあります。県民センターでは、この議論を県内の水産業実務者、識者とともに、水産業を入口として「ひと」と「生業（なりわい）」の復興へのみちを探る目的でシンポジウムを開催したものです。

シンポでは、5人のパネラーのみなさんからそれぞれ問題提起をしていただきました。県漁協の船渡隆平専務理事からは、漁港の復旧がいまだに回復していないこと、漁民の70%以上は漁業を継続したいと強く思っていること、放射能の風評被害の深刻さと行政支援の必要性が強調されました。産地市場の石巻魚市場(株)の須能邦雄社長からは、水産業の持つ特性を踏まえ、TPP加盟による格差拡大、「里山資本主義」的発想に基づく共生社会づくりの必要性が述べられました。

塩釜蒲鉾連合商工業協同組合の阿部善久理事長は、流通各社の定番商品が他産地メーカーに奪われて販路が極端に縮小し、ゼロからの出発をせざるを得ない現状や復興庁の対応の不十分さなど実例に基づいて指摘しました。東北大学教授の片山知史教授からは、港の復旧にとって、漁港集約化や水産特区、防潮堤など、県の復興計画そのものが足かせになっていること、生産者がいう安全と消費者が求める安全の間にあるギャップを埋める取組の必要性が述べられました。

最後に河北新報社寺島英弥編集委員はあらゆるところで風評被害が起こっており復興を妨げていること、風評の定着（固定化）をどう壊すかが今のいちばんの課題であることを強調しました。

その後、会場からの質問や意見表明も活発に行われ、都市生活者と生産者が相互にそれぞれのくらしや顔が見える関係を作り上げるために、宮城の現状を全国に発信することの大切さを確認し合いました。

県民センターでは、シンポの記録を6月末までに取りまとめ、ホームページでご紹介する予定です。



180人の方々と水産業復興のみちを討議しました。



オープニングの松平晃さんのトランペット演奏

2014 みやぎアクション

3.16 NO NUKESみやぎに2千人



3月16日午後、仙台市錦町公園で「3.16NO NUKESみやぎ 2014みやぎアクション」が開催されました。

当日は雨にも関わらず県内外から約2000人の原発廃止を求める人達があつまりました。集会には宗教団体、映画上映団体、生協など19団体がブースを出展し、それぞれの団体の活動を紹介しました。

第一部のライブパフォーマンスのあと、野外集会ではゲスト発言者として、武藤類子さん（福島原発告訴団・団長）、佐々木功悦さん（前美里町長）のお二人から原発がいかに危険で、廃止しかないとアピールしました。集会では、重大事故のリスクが最も高い女川原発審査申請に抗議し、東北電力は再稼働を断念すること、村井知事は県民の命を守るため「国の再稼働ゴーサイン」をまってそれを追認する姿勢を改めることなどを盛り込んだ「みやぎアピール」を拍手で確認しました（翌日、アピールを東北電力に提出）。その後、市内をデモ行進し、市民に「脱原発」を訴えました。

原発が立地している14道県の住民運動はそれぞれ課題を抱えています。そのなかで宮城において8団体が協賛、賛同団体が65団体、ブース出展が19団体というように様々な立場の個人・団体が賛同して「脱原発」という点での共同が広がっていることを示すものとなりました。

「専門家による検討委員会」設置を陳情

前号で紹介した「専門家による検討委員会」設置の陳情を「3.16集会」を準備した団体の共同の取り組みとして県議会に陳情書を3月5日に提出しました。そして18日の県議会環境生活農林水産委員会で審議されました。県環境生活部長は「どういう形で進めていくかこれから鋭意検討する」と答えました、また「早く方針を決めて県議会にも諮りたい」とも発言し、検討委員会の設置を求める課題が浮き彫りになっています。

6月議会に向けた取り組みが求められます。



3月27日 石巻住まい連

石巻市長に第三次陳情書提出



佐立代表委員から要請書を受け取る亀山市長



市長に要請する被災者の方々

3月27日、石巻住まいと復興を考える会連絡協議会（略称「石巻住まい連」）のメンバー11人が参加し、亀山紘石巻市長に「第3次陳情書」を提出しました。前回の陳情は昨年3月29日に行われ、1年ぶりのものです。

今回の陳情では「石巻市が復興計画に掲げた『世界の復興モデル都市』の目標は、果たしてその実現に向かって近づいているのか、被災者の暮らしや住まい、まちづくりが希望の持てるものになっているのでしょうか？」という問題意識に基づいて、「今、その具体的検証が求め」られているという立場からのものとなっています。

陳情書は、復興に当たっては最初に「津波から生命を守る安全・安心のまちづくり」に対する施策の強化をもとめ、その上で、「住まいと防災集団移転、復興公営住宅を被災者の実状に合わせたものにすること」を求めています。また長引く仮設住宅（みなし仮設）での生活や住居環境整備急ぐこと、そしてそれらを進めるうえでは、「町内会など、地域での話し合いをうながし、被災者の声を反映させ、住民参加の復興とする行政の特段の努力」を求めています。また、女川原発の再稼働に反対する立場も従来どおり掲げています。昨年の陳情の際に具体化されなかった事柄も「継続要望事項」として掲げています。

市長要請のなかで、被災者の方々からは今自分達が不安に思っていること、心配なことがこもごも発言され、市長に直接「思い」を伝えました。亀山市長からは「当初、復興予算は27年度で終了ということだったが、国に対して27年度より延長するよう要請してきている」こと、「思ったより（復興の）時間がかかっているが復興が見えるように（市長も頑張るので）、みなさんも頑張ってもらいたい。いままで十分に頑張ってもらっていて、心苦しいが」と述べました。

第三次陳情書の回答は5月末までに回答を求めています。

なお、第三次陳情書の全文は県民センターホームページに掲載していません。

被災地から「この国のかたち」を正す 自治体学校 in 仙台プレシンポ開く

3月8日、東北大学で自治体問題研究所主催のシンポジウムが開催され、150人が参加しました。

このシンポは今年7月26～28日に開催される「自治体学校」のプレ企画として開催されたものです。シンポでは立命館大学塩崎賢明教授が「被災地から考える復興・減災」と題して、福島県浪江町の馬場有町長が「原発災害からの住民の命を守る」と題して講演しました。馬場町長は、浪江町の9校の生徒が全国699校に分散していること、浪江町では震災直接死が約180人だったことに対して、関連死が316人にも及んでいることに触れながら、憲法13条、25条の条文があるにも関わらず、それが蔑ろにされている政治の現状を厳しく指摘し、東電がいかにもいい加減な対応しかしてこなかったかを怒りを込めて報告しました。

自治体学校の開催内容は次号以降でご紹介します。

震災から3年 ∞みんな集まれ∞ 響のWA! 石巻で開催

震災以来、被災者の救援活動を進めてきた「ライフサポート響」の震災3周年イベントが3月22・23日開催されました。初日は石巻専修大を会場にしましたが来場数は予定を下回ったものの、震災後ボランティアのベース基地だったことから当時専修大で寝泊まりし、被災直後にボランティアをしていた方が家族を連れて来場したり、多数の学生さんにも参加しました。

2日目は仮設住宅で暮らすおばあちゃんたちが開場1時間前には会場前に集まりスタートを30分繰り上げざるを得ないほどの盛況でした。各地のミュージシャンや福島からの炊き出し隊、遠くは愛知県から力士把瑠都関の専属整体師の方、吉祥寺のバーテンダーさんや笑顔を写真にと笑顔プロジェクトの皆さん、石巻を中心に被災商店さんや仮設住宅の手仕事さん、愛知県の虹色スマイルプロジェクトさんが全面協力、司法修習生の皆さんのボランティアも頂く事が出来ました。ライフサポート響の阿部さんは「被災の有無、被災地内外の枠を超えたイベントになり新たな繋がりも多数出来たことが最大の成果だった」と語っていました。



響のWA!

4.21 反 TPP 県民集会 仙台市民広場で

日本政府は4月の米オバマ大統領訪日を契機に、混迷を深めているTPP交渉に決着をつけようとしています。そこで、訪日前の21日午後には仙台市民広場で県民集会を開催することになりました。多数の皆さんの参加を呼び掛けます。

5.3 憲法集会

護憲三団体主催
午後1時～
会場：仙台国際センター

雑誌「世界」4月号 ‘東北ショック・ドクトリン’第4回で、「水産特区」問題が大きく取り上げられました。

「世界」で、古川美穂氏が取り上げています。水産特区が「社会実験」とすれば、「傷つき、疲弊した被災地の人々に対して『社会実験』をすることが許されるのか」と主張しています。当県民センター綱島代表世話人も取材を受けました。

亀井文夫 全作品上映 その3

4月13日 午前11時 午後2時 二本立て上映
会場：荒町養賢堂(仙台市若林区荒町130 ☎022-266-3331) 主催：岸の羊座(022-353-9071) 上映作品①生きていてよかった(1956年) ②鳩はばたく(1958年)
参加費1000円 プレイガイド・桜井薬局セントラルホール・幸洋堂・右岸の羊座 (仙台市市民文化事業団後援)

3.16 NO NUKES 集会で 案内されたイベント

8.10 加藤登紀子トーク & ライブ with 小出裕章

主催：女川から未来を考える会 14時～17時 女川総合体育館 チケット1000円
問合せ先：荒井さん
090-1107-6894

6.8 さようなら原発 in い しのまき

主催：さようなら原発 in いしのまき実行委員会
石巻中央公民館大ホール
午前の部 午前10時～
出店・音楽会
午後の部 午後1時～
福島からの報告/講演会 講師鎌田慧さん 小笠原厚子さん。
午後3時40分～市内アピール行進
講演会チケットの申し込み、問合せ先：近藤さん
0225-94-1041